

41. 秋田大学医学部附属病院における高気圧酸素治療状況

戸部善継 松元 茂 渡部美種
(秋田大学医学部麻酔科)

目的：1978年3月，中央手術部に高気圧治療装置「中村鉄工所製 one man chamber NHC-212 型」が設置され，以来，種々の疾患に対して治療を行った。ここに1978年11月から1983年12月までの約5年間の高気圧治療状況を報告する。

方法：原則として純酸素化治療時は，加圧，減圧時間10～20分間で行い，最高圧力2～2.5 ATAで60分維持する。従って治療時間としては加圧減圧時間含めて70分～80分であり，多少異なる症例もある。潜水病に対しては，空気再圧法も行った。

結果：治療症例数120例，性別では男性71例，女性49例，延べ治療回数1018回，1人当たり1～30回，平均8.5回である。年次別症例では1978年1例，79年21例，80年13例，81年21例，82年31例，83年33例，80年を除いて多少増加にある。

対象となった疾患別症例では，突発性難聴61例，CO中毒19例，意識障害12例，潜水病7例，網膜動脈閉塞症6例，椎弓切除術後，術後麻痺，顔面神経麻痺，メニエール，各2例，その他7疾患各1例であり，症例としては，突発性難聴が最も多く全体の約50%を占めている。症例中，救急例109例，非救急例11例と救急例が多く，疾患では，救急疾患8種，非救急疾患9種と大差はなかった。

主な疾患に対する治療効果では，突発性難聴有効約71%，CO中毒有効78.9%，意識障害有効41.7%，潜水病85.7%に対して有効であった。網膜動脈閉塞症においては，有効と認められた症例がなかった。

42. 突発性難聴における高気圧酸素療法—最近5年間の治療成績—

松元 茂 高橋 巨
戸部善継 渡部美種
(秋田大学医学部麻酔科)

目的：近年，突発性難聴に対し，様々な治療法が試みられている。我々は，1979年より，高気圧酸素療法を開始した。最近5年間の治療成績を元に，突発性難聴に対する高気圧酸素療法の治療効果を検討した。

方法：治療方法は，絶対2気圧にて純酸素加圧60分とし，原則として星状神経節ブロックを併用した。

治療効果の判定は，聴力検査結果を用い，厚生省突発性難聴研究班の治療効果判定基準に基づいて行った。

結果：症例数は61名，68耳で，71.2%に治療効果を認めた。初期聴力像により，治療成績に差異が認められた。発症早期に治療開始した症例で，良好な治療成績を得る傾向があった。めまい，耳鳴り等随伴症状においても治療効果を認めた。

突発性難聴の成因には未だ定説は無く，その治療方法も確立されていない現在，高気圧酸素療法は，局所の酸素不足を解消する意味で有効であると思われる。